

いきいき 行田人

自然体な俳句で埼玉よみうり文芸 年間大賞最優秀賞を受賞

新井 娃子^{あいこ}さん (79歳・宮本)

何にでも興味・関心を持つ日ごろの自分自身を表現した川柳『好奇心あつて転んでばかりいる』で読売新聞「埼玉よみうり文芸」の年間大賞最優秀賞を受賞したのが、今回紹介する新井娃子さんです。

行田生まれの行田育ち、積極的に外へ出て人と話をしたりすることが何より好きな新井さんは、自宅近くで薬局を妹と営む傍ら、53歳のころに熊谷の百貨店で行われている読書サークルへ行くことにしたそうです。しかし、10カ月目でサークルは終了してしまい、サークル仲間から現代俳句協会名誉会長の金子兜太先生が指導を行う俳句教室に誘われました。「はじめは俳句に興味があつたわけではなく、たくさんの方とおしゃべりすることを楽しみに月1回教室へ通い始めたんです」宿題として出される兼題を基に、思いつくまま筆をとり、気負うことなく始めた俳句でしたが、2



回目の教室で提出した句が「天・地・人」と評価される中でもっとも良い「天」を取ったのを機に、寝ても覚めても句を考えるほど俳句のとりことなり、どんなに忙しくても欠かさずに教室へ通ったそうです。

5年ほど前から、長野公民館で開催された川柳講座にも参加するようになり、さらに活動の幅を広げた新井さんは、店に毎月届く雑誌に川柳が掲載されているのを目にし、たびたび句を投稿するようになりました。多くの人とのお会いや交流、日常会話から生まれる新井さんの自然体な句は、NHK学園俳句友の会作品コンクールを始め、秩父鉄道俳句応募事業、埼玉俳句大会、伊藤園俳句大賞などで入賞し、その実力はこれまでも広く認められてきましたが、今回の年間大賞受賞についても「受賞の一報を聞いたときはびっくりしましたし、夢のようです」と素直に喜びを語りました。

現在は病気療養中で、俳句教室もしばらく休んでいるそうですが、「病気になるって教えられたことや分かることもあるし、生きていけば楽しいことはたくさんありますから」と話すように、どんなときも前向きで好奇心旺盛な新井さん。病気を治して体力を戻し、たくさんの仲間がいる教室に一日でも早く行ける日を心待ちにしながら、今日も気ままに、俳句・川柳づくりを続けています。

私の作品

俳句

- 木の芽^え和野山の精気もらいけり 忍 丸山 連子
- 好きだよと春の語らい嫁姑 佐間 藤田 素仙
- 手作りの顔やさしきや夫婦雛 荒木 増田 時枝
- 草団子小腹の空きに丁度良く 下中条 飯塚よね子
- 眺むればピンクピンクや桃の花 須加 須加 照代
- 白桃の花の下にて野点かな 埼玉 松岡 孝子
- 菜の花や紙にしみこむ水絵具 南河原 三沢 一水
- 屈託^{くつたく}を砕くごとくに青き踏む 深水町 松岡 東籬
- ささやきの聞こえるような花つぼみ 壹里山町 大竹 祐子
- 日を探しひたすら尖^{とが}る新芽かな 清水町 石川 朝美
- 岸壁に汽笛流れて春うらら 城南 町田 達男
- 春耕の背に遠き日の夫重ね 荒木 高澤よね子
- 奈良の旅鹿寄せの笛桜かな 持田 丸山 麟一
- 初蝶の風に任せて舞い去りぬ (木島 斗川 監修)
- パリパリと割れはしまいか寒の月 門井町 竹内 一夫



『花器』(陶芸)
瀬山 健三 (下忍)

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。